

2014年9月30日に渡仏しました。前日の深夜、キャンパスフランスが手配してくれた成田発の飛行機がストライキのため欠航となることを知り途方に暮れたのですが、定刻通り成田空港に行って振替手続きを行い無事羽田から出発することができました。ストライキというフランスの「文化」の洗礼を受けた思いでしたが、大使館の方やフランスの受け入れ教員の先生が連絡をくださったおかげであまり不安を感じずに済みました。羽田からフランクフルトまで飛行機で移動し、そこでバスに乗り換えてストラスブールに入りました。航空券の変更のため深夜の到着となったのですが、受け入れ教員の **Vilmos Komornik** 先生がバス停まで車で迎えに来て宿泊先まで送ってくださりました。宿泊先のアパートマンはストラスブール大学に短期滞在する研究者用の施設で、事前に **Komornik** 先生が用意してくれたものです。銀行口座の開設やレンタル自転車を借りるのに必要な住居証明も容易に入手できたので、住まいに関して苦労することはありませんでした。

到着翌日から数学科の研究室を与えられ、図書室を利用できるようになりました。また、数学科に併設されている Institut de Recherche Mathématique Avancée (IRMA) の Modélisation et contrôle (MOCO) のメーリングリストに入れてもらい毎週火曜日に行われるセミナーに参加することになりました。MOCO は偏微分方程式、制御理論、数値計算および統計学の研究者のチームです。Feel++ という C++ 用の有限要素法ライブラリの開発を行っており、数値シミュレーションの理論と実装を勉強することができました。セミナーではストラスブール大学だけでなく米国やイタリアなどさまざまな国の研究者が講演します。講演者がフランス語話者であればフランス語で、それ以外は英語です。講演がフランス語でも、質疑応答は英語の場合もありました。数学史の学会では、ストラスブールの大聖堂の天文時計と数学文化という当地ならではの面白い話が聴けました。からくり人形で有名な天文時計ですが、さまざまな天文データを計算できる複雑な計算機になっているそうです。19世紀のストラスブールの労働者階級の人々が見事な数処理技術を持っていたことがよくわかりました。

語学の勉強としては、Spiral という大学の語学センターに登録し、フランス語と英語の会話の Atelier (ワークショップ) に参加したり、Tandem というシステムを利用して日本語学科の学生と語学交換をしたりしました。文化理解の Atelier では自国の政治、歴史、宗教、風俗などを紹介し合うのですが、自分が日本のことを何も知らないことを痛感しました。たとえば、日本の首相の任期。初めて聞かれたときは答えられませんでした。二度目からは、頻繁に交代するので任期を全うすることが少ないからわからないという失笑されました。また、日本の宗教についてもよく尋ねられました。東日本大震災のとき、日本人の礼節に世界中が驚いたわけですが、それは一体どこからくるのか。多くの日本人は宗教を強く意識してはおらず、葬儀と墓は仏式、結婚は神式かキリスト教式といういい加減さであること。正月もバレンタインも雛祭りも端午の節句もハロウィンもクリスマスも祝う節操のなさ。そのなかで、生あるもの、自分が使うもの、すべての祭事への感謝と希望が一体となって日本人の礼節を生み出すのだ、と拙いフランス語で解説しました。でも、どんなに言葉を尽くしても、食事の前に「いただきます」と手を合わせて感謝するしぐさが一番伝わったようです。文化理解の他には、ディベート中心の Atelier がありました。中でも TED のプレゼンテーションをみてディスカッションしたのが面白かったです。TED の映像でも Atelier の現場でもさまざまな国籍の人の英語を聴き、英語に関してはいろいろな訛りに慣れることが必要だと感じました。また、MyCow というサイトを使った授業もありました。MyCow はフランス人が英語を勉強するためのサイトです。英語のニュース記事がフランス語で解説されており、英語とフランス語の時事用語を学べるので大変勉強になりました。ちなみに、英語の Atelier の講師はストラスブール大学の英語圏出身の学生が務めていました。学生なので教授法に長けている人ばかりではなかったのですが、生徒目線でどのような先生が信頼できるのかわかりました。絶対に授業中は

生徒から目を離してはいけない、質問は具体的にすること、ポジティブな声掛けをすることが大切だと学びました。

留学4か月目の2015年1月からは、ストラスブール大学が無料で提供しているポスドクの研究者とその家族向けのフランス語講座に通いました。最初にクラス分けのための筆記試験があり、私は下のレベルのクラスに配属されました。下級クラスには理系の研究者が多く、研究室ではまったくフランス語を使わないという人もいて、être と avoir の活用など、非常に初歩的な文法事項から始まりました。会話の授業では、演劇のワークショップに参加しているつもりで臨みました。留学生の先輩に、ヨーロッパ人にとって会話はスポーツだからとにかく声を出せ、球を返せ、また相槌をまねしてなりきることが大事だと助言されたので、買い物の寸劇でフランス人の店員のものまねをしたら、周りの人が笑ってくれました。フランスの接客する側とされる側が同等であるような接客態度に感ずるものは他の外国人も同じだったようです。

学業以外では、いくつかの日本に関する展示会に行きました。2014年はアルザス日本友好150周年ということで多くのイベントが開催されていたのです。明治維新以前から交易があったことに驚きました。

コルマールの展示会では、岐阜県とアルザスがコラボレーションして地歌舞伎の公演を行っていました。フランス語の字幕付きで、奇抜な衣装と化粧をみて地元の人々は大層盛り上がっていました。



日本のアニメも大人気のようにでした。一方、やや奇妙な鳥居や着物を模したものがあり、これが日本の伝統だと信じてしまう外国人もいるだろうと心配になりました。フランスが自国のデザインを守ることに最新の注意を払っていることを考えると、残念です。



ストラスブールといえばマルシェドノエルです。私はアパルトマンで知り合った米国人の社会学者の女性

と一緒に出掛けました。かわいらしい人形が売られていたところ、同行した女性が「最上段が金髪の白人、最下段が黒人。これは明らかに人種差別を表している」と指摘しました。無邪気に物見遊山を楽しんでいましたが、思わぬところに差別が潜んでいるのだと知りました。



ストラスブールという国際的な都市でさまざまな人と出会い、見聞を広めることができました。今後はこの経験を教育に生かしたいと思います。湯浅年子記念特別研究員、フランス政府給費留学生としてこのような機会を与えてくださった方々、JSPS ストラスブールセンターの皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。